



(住所) 安堵町東安堵1-379
(祭神) 素戔鳴尊
(文化財) 本殿とももで踊り道具は
県指定文化財

(交通) JR法隆寺駅から「かしの
木台一丁目」か「住江織物」
行バスで「東安堵」下車す
ぐ。駐車場無

飽波神社 (安堵町)

飽波神社は安堵町の太子道(筋違道)沿いに鎮座しており、江戸時代には牛頭天王社と呼ばれていました。

太子道とは、聖徳太子が斑鳩と飛鳥を愛馬・黒駒に乗って往還したと伝わる古道で奈良盆地を斜めに横切っています。神社の近くには安堵町



役場や安堵町歴史民俗資料館があり、また太子道

太子ゆかり「腰掛け石」も

沿いには聖徳太子の伝承が数多く残っています。飽波神社も太子が晩年に妃の昔岐々美郎女と過ごしたと伝わる「飽波蘆垣宮」跡候補地のひとつとされています。

本殿は、檜皮葺の一間社(正面の柱間が一つ)

春日造で、県指定文化財となっています。また境内には太子が腰かけて黒駒とともに休息をとったと伝わる「太子腰掛け石」があります。

当神社では江戸時代ごろより、雨乞いの「なもで踊り」が奉納されてきました。明治時代に途切れ

95年に約100年ぶりに復活され、毎年10月の秋祭りの宵宮(今年は10月第4日曜日前日の26日)に奉納されています。踊りの衣装や絵馬など関係資料は県指定文化財です。

鳥居に掲げられた扁額「安久波社」の文字は、安堵町出身の近代陶芸家である人間国宝第1号の富本憲吉の筆によるものです。(奈良まほろばソムリエの会会員 河添正雄)